

2019年7月22日

熊本市と日産自動車、 「電気自動車を活用した持続可能なまちづくりに関する連携協定」を締結

熊本市(熊本県熊本市、市長:大西 一史)と日産自動車株式会社(本社:神奈川県横浜市西区、社長:西川 廣人)、ならびに、日産の販売会社である、熊本日産自動車株式会社(本社:熊本県熊本市西区、社長:坂田 信治)、日産プリンス熊本販売株式会社(本社:熊本県熊本市東区、社長:亀田 文雄)の4者は、22日、「電気自動車を活用した持続可能なまちづくりに関する連携協定」を締結したと発表しました。

本協定の内容は、熊本市が、『電気自動車(EV)の普及を通じて、温室効果ガスの削減や地域課題解決に取り組むと共に、地震災害等による大規模停電が発生した際に、市が指定する避難所等において、日産の販売会社である熊本日産自動車およびプリンス熊本販売より貸与される電気自動車(EV)「日産リーフ」を電力源として活用することで、避難所の円滑な運営を行い、市民の安全確保に努める』というものです。

熊本市は、地方自治体による持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた優れた取組みを提案する都市として、内閣府により認められ、2019年7月1日、「SDGs未来都市」として選定されました。

この連携事業は、熊本市が、「熊本地震の経験と教訓をいかした地域(防災)力の向上事業」として国に提案し、2019年度の「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定され、特に先導的な取組として認められた事業の一環です。

一方、日産自動車は、日本が抱える環境負荷低減や災害対策等の課題を解決するため、昨年5月に日本電動化アクション『ブルー・スイッチ』を発表し、その活動を牽引するリーダーとして、全国の自治体や企業と協力して、電気自動車(EV)普及を通じた社会の変革に積極的に取り組んでいます。

この日産自動車が進める「ブルー・スイッチ活動」、そして、熊本市の「SDGs未来都市」と、双方の取り組みに相互が賛同し、今回本協定の締結を行う運びとなりました。

「電気自動車を活用した持続可能なまちづくりに関する連携協定」の概要は以下の通りです。

【協定の概要】

① 電気自動車(EV)の普及促進による市民の環境意識の向上

熊本市と日産自動車は、電気自動車(EV)の普及啓発を行うほか、熊本市のイベントで使用する電力をEVから供給することで、電気自動車は「動く蓄電池」として活用できることを市民へ積極的にアピールしていく。

② 災害時における電気自動車(EV)活用による市民の安全確保

日産自動車、熊本日産自動車およびプリンス熊本販売は、熊本市で災害発生を起因とする停電が発生した際または災害が起こりうる状況で市からの要請があった際に、熊本市が指定する避難所※に、熊本日産自動車/プリンス熊本販売の店舗に配備している電気自動車(EV)「日産リーフ」を無償で貸与する。※熊本市の避難所 19 か所

熊本市、日産自動車、熊本日産自動車、プリンス熊本販売が協力して電気自動車(EV)からの給電を行うことで、災害時においても継続して電力が供給できる体制を整え、避難所の円滑な運営を図り、市民の生命及び身体の安全を守る。

③ 電気自動車(EV)普及を通じた地域課題の解決

地域力や防災力を確保するための地域のつながり確保や、大気汚染や騒音の解消など、電気自動車(EV)の普及を通じて、熊本市は日産と連携しながら、市の地域課題の解決を図る。

熊本市は、3年前の熊本地震後、「熊本市震災復興計画」を策定する中で、防災・減災のまちづくりの取組として、災害に強い自立・分散型のエネルギーシステムの構築を計画し、清掃工場を核としましたエネルギー事業を展開しています。熊本市が出資した地域エネルギー会社が、市施設への電力供給事業を行うほか、大型蓄電池や自営線の設置およびEV充電拠点などの整備を行うことで、エネルギーの地産地消の推進や地域内経済循環に加え、防災力の強化を図るものです。

とりわけ、熊本市のエネルギー事業の特徴は、熊本市の清掃工場が発電した電力を使用することであり、清掃工場が停止しない限り発電をし続けるため、電気自動車(EV)充電拠点を通じて「自立・分散型の電力」を確保できることです。

この途切れない電力である「自立・分散型の電力」を電気自動車(EV)に充電し、災害時に供給することは、全国初の取組です。

また、自治体と日産との協定では、熊本市が九州初の連携パートナーとなります。

3年前の熊本地震発生の際、日産自動車は、ここ熊本の販売会社と連携して義援金拠出の他、電気自動車「日産リーフ」と「e-NV200」合わせて約100台の貸与や、飲料水や白米などの必要物資の支援を行い、熊本市と日産は絆を強めてまいりました。

日産自動車は、人々の生活を豊かに、というビジョンのもと、「ニッサン インテリジェント モビリティ」を推進し、独自性にあふれ、革新的なクルマやサービスをお届けすることを使命に活動を続けています。そして、『ブルー・スイッチ』の推進に加え、電気自動車(EV)というクルマの販売にとどまらず、EVがもたらす豊かな生活の実現、そしてEVが成し得る社会変革のために、EVの生み出す新たな価値を世界に発信し続け、よりよい社会づくりへの貢献を目指しています。

熊本市と日産自動車は、今後もこの協定締結を機に、温暖化対策の推進、災害に強いまちづくり、更には、電気自動車(EV)の普及を通じた様々な地域課題の解決によるSDGsの達成に向けて連携を強化してまいります。

以上